

第15回 自治行政情報 懇話会

－ わが身を守る －

■日時 2012年11月22日（木）14:00～17:00（受付13:30～）

■場所：大阪駅前第2ビル4階「大学コンソーシアム大阪」会議室 ルームA

■プログラム

開会挨拶 NPO法人GIS総合研究所 川添 博史

1：基調講演 自助・共助・公助を効果的な事前復興準備に生かすために 14:10～14:55

兵庫県立大学大学院応用情報科学 有馬昌宏

2：大阪市における防災の取り組み 15:00～15:30

大阪市危機管理室 松本室長

3：意見交換 15:30～17:00

議題：災害時における公助と自助について

2012年11月22日（木）に大学コンソーシアム大阪にて、地理情報システム学会GIS資格認定協会の教育認定プログラム「第15回 自治行政情報 懇話会」が開催されました。

今回は、地方自治体の具体的な業務課題をテーマとして、地理空間情報活用による具体的解決方法を検討する新しい試みとして、「災害時の自助」をテーマとして、情報共有・意見交換を行いました。

兵庫県立大学の有馬昌宏教授からは、兵庫県三木市の自助対策（地震保険加入率、家具転倒防止実施率など）に関する調査と地理空間分析から明らかとなった対策率の地域的差異による「地域を絞り込んだ自助対策向上の取り組み」、「自主防災組織の単なる組織化でなく機能化」を公の補助・支援のもとに実施しておくことの必要性をお聞きしました。

また、大阪市危機管理室の松本室長から、「大阪市における防災の取り組み」と「東日本大震災以降の公助の限界、自助の必要性」について、お聞きしました。

後半の意見交換では、参加されている自治体職員と発表者の間で、「災害時における公助と自助」への地理空間情報を活用した方策について、積極的な意見交換が行われました。

具体的には、自助対策率の地図化など「地域を絞り込んだ自助対策向上の取り組み」にGISが果たせる役割、家屋倒壊が予想される地域への地震保険加入を「民」の力で進めてもらうための取り組みへ行政が果たせる役割などについて、お互いが対等な立場で、活発な意見交換を行いました。

